

高齢者の主観的幸福度の構造分析

Structural Analysis of the Subjective Well-Being of Older People

宗 健 麗澤大学 工学部 教授
SO Takeshi Professor, Faculty of Engineering, Reitaku University

要旨:本研究では、全国の約 35 万人を対象とした大規模なアンケートデータを用いて、主観的幸福度の分析を行なった。年齢別主観的幸福度は 50 歳頃を最低とする U 字型であること、性別、婚姻状況、子供有無、住宅所有等の属性によって差があることが示され、主観的幸福度を目的変数、年収等の個人属性を説明変数として、年齢、性別等で層別化した重回帰分析を行なった結果では、65 歳以上では性別、婚姻状況、住宅所有の有無によって説明変数の影響が大きく異なることが示された。
キーワード:主観的幸福度、個人属性、重回帰分析、高齢者

Abstract: The study analyzes subjective well-being using large-scale survey data collected from approximately 350,000 individuals nationwide. The results indicate that subjective well-being follows a U-shaped curve across age groups, reaching its lowest point around age 50. Significant differences are observed across demographic attributes such as gender, marital status, presence of children, and home ownership. Multiple regression analyses were conducted with subjective well-being as the dependent variable and individual characteristics, including annual income, as explanatory variables, stratified by age groups. The findings reveal that, among individuals aged 65 and older, the effects of explanatory variables differ substantially depending on gender, marital status, and home ownership. These results highlight the heterogeneous determinants of subjective well-being across demographic subgroups.

1. 研究の背景および目的

近年、主観的幸福度の関心が世界的に高まっており、OECD(2012)も幸福度白書を発行しており、内閣府でも Well-being に関する各種の取り組みが行なわれているようになっている。

日本では少子高齢化が進展とともに、高齢者の経済格差の拡大も指摘されており、高齢者が安心して、幸福度高く暮らす環境を実現することも重要な社会課題になりつつある。

一方で、根拠が曖昧な「幸せになれるたった〇つの方法」といった幸福論もメディアには多く見られる。

本研究では、そうした個人の経験論や、インターネットでの収益を目的としたような根拠の曖昧な幸福論ではなく、データに基づく主観的幸福度の構造を提示することで、社会全体の幸福度の総量を拡大できるようにインプリケーションを得ることを目的としている。

本研究では、高齢者比率が高まっていることに対して一定の示唆を示すために、特に 65 歳以上を対象とした主観的幸福度の構造を明らかにすることに焦点を当てている。

2. 先行研究のレビュー

海外でも多数の幸福度に関する研究の蓄積があり、代表的なものには SWB(Subjective Well-Being) 研究を体系化した Diener, E., Suh, E., Lucas, R. E., & Smith, H. (1999) や、経験的幸福(experienced well-being)はある年収で頭打ちになるということを示した Kahneman, D., & Deaton, A. (2010) といったものがある。また邦訳された書籍としては、ブルーノ S. フライ・アロイス・スタッツァー (2005) がある。

日本でも多数の研究の蓄積があり、研究成果がまとめられた書籍として、大竹ら(2010)、橘木ら(2018)、鶴見ら(2021)といったものがある。

高齢者を対象とした研究では、幸福度の変化を分析した中川(2018)の研究、アンケートの自由記述テキストを分析した岩原ら(2023)の研究、高齢者を対象とした重回帰分析を行なった鶴羽ら(2024)といったものがあるが、本研究のような大規模でかつ説明変数の多い研究は独自性と新規性があるものである。

3. 研究の方法

研究は、住みこちランキング調査^{※1)}に主観的幸福度(最も不幸な場合を 1、最も幸福な場合を 10 とする 10 段階で回答を得ている)、性別、婚姻状況、子供の有無、就労状況、自己認知等の多数の設問を含むアンケートデータを用いて分析を行う。

アンケート調査は 2019 年から行なわれているが、本研究では分析に必要な設問が揃っている 2024 年(回答者数 166,640 名)と 2025 年(同 182,804 名)のデータを用いる。アンケート調査は、配布・回収を株式会社マクロミルに委託して 2024 年 2 月 21 日から 3 月 14 日、2025 年 2 月 21 日から 3 月 10 日に行なった。回答者属性の属性別の比率は、表 1 の通りである。

まず、主観的幸福度の年齢による変化を、先行研究でも大きく差があるとされる性別と婚姻状態の違いを把握するために男性既婚、男性未婚、女性既婚、女性既婚での集計を行なう。

次に、本研究の主眼である 65 歳以上の幸福度の傾向を把握するために、全年齢の主観的幸福度と 65 歳以上の性別・婚姻状態・住宅所有の形態による主観的幸福度の集計を行なう。

その上で、主観的幸福度を目的変数とし、年齢、性別、婚姻状況、子供・孫の有無、学歴、職業、年収といった個人属性に自己認知、街への印象、格差意識、各種満足度といった項目を説明変数とした重回帰分析を、属性毎に層別化して行い、どのような構造の違いがあるのかを把握する。

これらの結果を考察し今後の課題についてまとめる。

4. 分析結果

(1) 年齢別主観的幸福度

図 1 は年齢毎の主観的幸福度を集計したものである。図では全年齢対象の年齢毎の標準標準偏差を含めている。

全体的な傾向としては、50 歳前後を底とする U 字型になっており、これは先行研究でも示されている結果と整合的である。

属性別の主観的幸福度を見ると、女性既婚、男性既婚、女性未婚、男性未婚の順に幸福度が下がっていることが観察され、女性既婚と男性既婚の差は比較的小

表1 回答者属性

分析対象となった回答者数		349,444名
区分		平均
性別	男性	53.0%
	女性	47.0%
年代	20歳代	10.3%
	30歳代	18.1%
	40歳代	22.8%
	50歳代	25.6%
	60歳代	16.9%
	70歳代	6.3%
婚姻	未婚(一度も結婚したことがない)	28.0%
	未婚(結婚していたが離婚した)	8.3%
	未婚(結婚していたが死別した)	1.6%
	未婚(結婚していないが同棲している)	0.7%
	既婚(離婚・死別の経験はない)	56.7%
	既婚(離婚の経験があり、再婚した)	4.3%
子供	既婚(死別の経験があり、再婚した)	0.5%
	同居している子どもがいる	38.9%
	別居している子どもがいる(単身赴任)	4.7%
	別居している子どもがいる(寄宿舍等)	3.4%
	別居している子どもがいる(子ども独立)	22.2%
	別居している子どもがいる(離婚・死別)	3.6%
孫	子どもはいない	42.8%
	同居している孫がいる	0.8%
	同居はしていないが、孫がいる(距離10km程度)	6.6%
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km程度)	7.4%
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km以上)	6.0%
	孫はいない	85.8%
住居	持ち家以外	47.0%
	持ち家	53.0%
最終学歴	中卒	4.5%
	高卒	29.5%
	短大・高専・専門	23.6%
	学士	35.4%
	修士	4.3%
	博士	2.7%
世帯年収	0以上400万円未満	29.5%
	400万以上800万円未満	32.1%
	800万以上1200万円未満	14.3%
	1200万以上1500万円未満	3.2%
	1500万以上2000万円未満	1.9%
	2000万以上	1.1%
世帯金融資産	ゼロ	25.8%
	1万以上100万円未満	6.3%
	100万以上500万円未満	15.1%
	500万以上1000万円未満	9.2%
	1000万以上2000万円未満	8.1%
	2000万以上5000万円未満	8.1%
	5000万円以上	4.9%

さいのに比べて、女性未婚と男性未婚の差は非常に大きくなっている。

全年齢を対象とした年齢毎の主観的幸福度の標準偏差は、年齢が上昇するに従って小さくなっており、高齢者のほうが主観的幸福度の差が小さいことが示され

ている。

これは、高齢者のほうが、資産格差が大きく、幸福度の差が広がるようなイメージがあることを否定する結果となっている。

(2)属性別主観的幸福度

表2は属性別の主観的幸福度と標準偏差である。

表2 属性別の主観的幸福度

区分			平均	標準偏差	回答者数	
全年齡	男女		6.45	2.13	349,444	
	男性		6.32	2.15	185,277	
	女性		6.60	2.09	164,167	
65歳以上	男女		6.96	1.78	46,417	
	男性		6.91	1.77	34,611	
	女性		7.08	1.80	11,806	
	既婚	持ち家	7.22	1.56	24,756	
		賃貸	6.62	1.88	3,696	
	未婚	持ち家	6.12	1.97	3,746	
		賃貸	5.53	2.17	2,413	
	女性	既婚	持ち家	7.34	1.65	6,012
			賃貸	6.90	1.88	2,276
		未婚	持ち家	6.98	1.83	2,168
			賃貸	6.37	2.01	1,350

最小1/最大10の10段階で、10が最も幸福

主観的幸福度は、全年齢を対象とした場合でも男性よりも女性の方が高く、65歳以上でも同様である。

属性別では、女性・既婚・持ち家の7.34が最も高く、男性・既婚・持ち家、女性・未婚・持ち家、女性・既婚・賃貸、男性・既婚・賃貸、女性・未婚・賃貸、男性・未婚・持ち家の順に下がっていき、男性・未婚・賃貸では5.53と非常に低い値となっている。

主観的幸福度の標準偏差は最も大きいのが男性・未婚・賃貸の2.17で、最も小さいのは男性・既婚・持ち家の1.56であり、高齢時の主観的幸福度の分散が小さいことを示している。

(3)主観的幸福度の重回帰分析結果-1

表3は全年齢男女、65歳以上男女、65歳以上男性、65歳以上女性の4属性を対象とした重回帰分析の結果である。自由度修正済決定係数は0.480～0.501となっている。

● 全年齢男女の場合の説明変数の傾向は以下の通りである。

- 20歳代をベースラインとした年齢ダミーは全てマイナスであり、高齢時の主観的幸福度が高いのは年齢効果ではないことが示されている。
- 女性のほうが男性よりも幸福度が高い。
- 未婚(一度も結婚したことがない)をベースラインとす

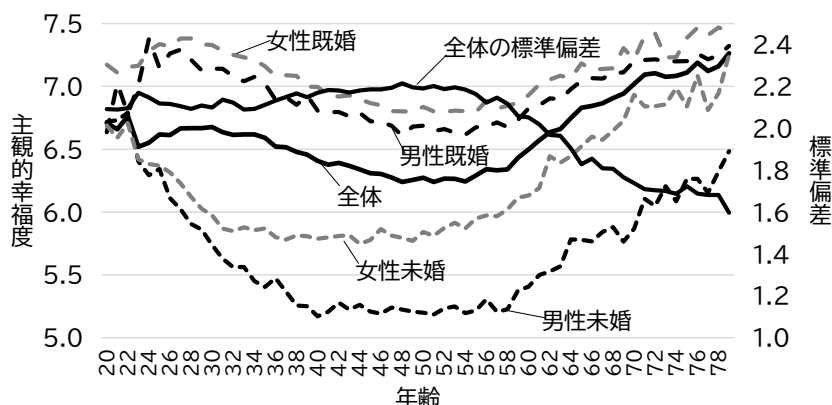


図1 年齢別・属性別主観的幸福度と主観的幸福度の標準偏差

ると、既婚(死別経験があり再婚した)場合のみマイナスで、同じ未婚でも離婚、死別の場合にプラスとなっているという興味深い結果となっている。また結婚していることのプラス効果はかなり大きい。

- 子どもがいいることはマイナスだが、子どもが居ることのプラス効果はあまり大きくない。孫が居ることはプラスだが、孫が居ないことのマイナスは有意ではない。
- 最終学歴が高くなるほどプラスであり、その効果は比較的大きい。
- 職業による差はあまりないが、無職であることは有意にマイナスである。
- 世帯年収のプラス効果はかなり小さく、世帯金融資産のプラス効果の方が大きい。
- 持ち家のプラス効果は有意だが小さい。
- 住宅種別の差はあまりない。
- 通勤時間が 90 分を超えると有意にマイナスで、週労働時間が 60 時間を超える有意にプラス効果がある。
- 居住地域への満足度は概ね有意なプラス効果があるが、行政サービスの効果は有意ではない。
- 住んでいる建物への満足度は有意なプラス効果が比較的大きい。
- 現住地に 20 年以上住んでいること、地元出身であることは有意だが効果は小さい。
- 自己認知では、「未来は明るい」と思うことのプラス効果は有意にかなり大きい。
- 街への気持ち、待ちへの印象は有意だが効果は小さい。
- 自分が下流だと思うこと、収入や社会的地位に劣等感を感じることは有意にマイナス。
- 家族関係への満足度、生活への満足度は有意に大きなプラス効果がある。
- 友達関係は有意なものもあるが効果は小さい。
- 人生でやりたいことがあることは有意なプラス効果がある。
- お酒を飲まないこと、外食、旅行の効果は小さい。
- クルマ保有、ペットを買っている効果は小さいが、喫煙者であることは有意にかなり大きなマイナス効果がある。リベラルな考え方をしていると小さいが有意なマイナス効果がある。
- 生活保護を受給していることは有意ではない。
- 65 歳以上を対象とした分析では、男性と女性で以下のような傾向の違いが示されている。
- 男性は結婚しているか同棲していることが幸福度に大きく有意にプラスだが、女性の場合にはあまり影響がない。
- 子どもがいいることは男性では有意にマイナスだが女性では有意ではない。逆に孫がいいることは女性では有意にマイナスだが男性では有意ではない。
- 最終学歴の影響は男性よりも女性のほうが大きい。
- 世帯金融資産の影響は男性のほうが女性よりも有意に影響が大きい。
- 持ち家は男性では有意にプラスだが女性では有意ではない。
- 地域への満足度は男性のほうが女性よりも影響が大きい。
- 地元出身であることは、男性では有意にマイナスだがその影響は小さく、女性では有意ではない。
- 人生でやりたいことがあることは男女とも有意だが女性のほうが男性よりも影響が大きい。
- よく外食することは男性では有意にプラスだが女性で

は有意ではない。

- ペットを飼っていることは女性では有意にマイナスだが男性では有意ではない。
- 生活保護を受給していることは、男性では優位にマイナスだが、女性では有意にプラスである。
- 男女ともに有意でない説明変数には、世帯年収、通勤時間と週労働時間、現住地に 20 年以上居住、お酒は飲まない、といったものがある。
- 男女で同じような傾向を示す説明変数には、建物満足度、自己認知の未来は明るい、待ちへの気持ち、街への印象、格差意識、その他満足度、友達関係、喫煙していること、などがある。このうち下流だと思う、劣等感を感じるといった格差意識の影響は有意にかなり大きい。

(4)主観的幸福度の重回帰分析結果-2

表 4 は、65 歳以上男性を対象に、既婚・未婚、持ち家・賃貸を組み合わせた 4 属性を対象とした重回帰分析の結果である。自由度修正済決定係数は 0.418～0.484 となっている。

説明変数の傾向は以下の通りである。

- 既婚・賃貸の場合に、死別の経験があり再婚したことは有意に大きなマイナスの影響がある。
- 既婚・賃貸の場合、同居している孫が居ることは有意に大きなプラスの影響がある。
- 最終学歴の影響は有意である場合が少なく。
- 既婚・持ち家の場合は、職業がほぼ全て有意にマイナスになっているが、それ以外の場合は有意である場合が少なく。
- 世帯年収の影響は有意でない場合が多い。
- 世帯金融資産は未婚・持ち家の場合に比較的に有意にプラスに働く。
- 仕事関係では、週労働時間 60 時間以上は既婚持ち家の場合のみ有意にプラスの影響がある。
- 現住地に 20 年以上居住していることは、どの属性でも影響がなく、地元出身であることは未婚・持ち家の場合のみ有意にマイナスの影響がある。
- 自己認知では、どの属性でも未来は明るいと思っしていることが有意に大きなプラスの影響がある。
- 街への気持ち、待ちへの印象は総じて影響が少なく。
- 格差意識は総じて有意にマイナスの影響があることが多く、下流だと思う、劣等感を感じることに全属性で有意なマイナスの影響がある。
- 家族関係、生活への満足度は総じてプラスの影響がある。
- 人生でやりたいことがあることは、持ち家の場合のみ有意にプラスの影響がある。
- お酒を飲まないことは全属性で有意ではないが、良く外食することは既婚の場合に有意にプラスの影響がある。
- 旅行することはほとんど影響がない。
- 喫煙していることは全属性で有意にマイナスの影響がある。
- 生活保護を受給していることは、既婚・賃貸の場合に有意に大きなマイナスの影響があるが、未婚・持ち家の場合には、有意にプラスの影響がある。

(5)主観的幸福度の重回帰分析結果-3

表 5 は、65 歳以上女性を対象に、既婚・未婚、持ち家・賃貸を組み合わせた 4 属性を対象とした重回帰分析の結果である。自由度修正済決定係数は 0.474～

表 3 主観的幸福度を目的変数とした回帰分析の結果(全年齢男女/65歳以上男女/65歳以上男性/65歳以上女性)

		全年齢		65歳以上		65歳以上	
		男性・女性		男性・女性		男性	
サンプルサイズ		349,444		46,417		34,611	
自由度修正決定係数		0.489		0.484		0.480	
項目		平均		平均		平均	
		回帰係数・p値		回帰係数・p値		回帰係数・p値	
目的変数		6.45		6.96		6.91	
年齢		20歳代(baseline)		(omitted)		(omitted)	
		10.3%		(omitted)		(omitted)	
		18.1%		(omitted)		(omitted)	
		22.8%		(omitted)		(omitted)	
		25.6%		(omitted)		(omitted)	
		16.9%		(omitted)		(omitted)	
		6.3%		(omitted)		(omitted)	
性別		53.0%		74.6%		52.5%	
		baseline		baseline		(omitted)	
		47.0%		25.4%		47.5%	
		0.26 ***		0.16 ***		(omitted)	
婚姻		28.0%		7.6%		7.8%	
		baseline		baseline		baseline	
		8.3%		0.16 ***		0.07 *	
		1.6%		0.17 ***		0.05	
		0.7%		0.36 ***		0.43 ***	
		56.7%		74.4%		77.2%	
		4.3%		0.56 ***		0.52 ***	
		0.5%		0.21 ***		0.23 **	
子ども・孫		38.9%		25.5%		25.4%	
		4.7%		0.00		-0.02	
		3.4%		-0.03 *		-0.10 **	
		22.2%		65.9%		64.9%	
		3.6%		-0.14 ***		-0.05	
		42.8%		21.4%		22.0%	
		0.8%		0.06		0.13 ***	
		6.6%		0.06		23.6%	
		7.4%		0.03 *		26.7%	
		6.0%		0.02		20.8%	
		85.8%		-0.03		47.5%	
最終学歴		2.7%		1.9%		2.3%	
		4.3%		0.21 ***		3.9%	
		35.4%		0.18 ***		44.6%	
		23.6%		0.19 ***		16.2%	
		29.5%		0.17 ***		30.2%	
		4.5%		baseline		3.1%	
職業		2.4%		3.5%		4.5%	
		8.3%		0.05 ***		2.8%	
		5.5%		0.00		1.7%	
		6.1%		-0.06 ***		6.2%	
		16.1%		-0.05 ***		13.5%	
		5.4%		-0.04 ***		7.6%	
		25.7%		-0.02		59.5%	
		12.2%		-0.16 ***		43.3%	
世帯年収		47.3%		57.4%		55.5%	
		32.1%		0.04 ***		30.5%	
		14.3%		0.04 ***		7.9%	
		3.2%		0.00		1.9%	
		1.9%		0.00		1.3%	
		1.1%		0.03		1.0%	
世帯金融資産		48.3%		37.3%		35.2%	
		6.3%		0.02		3.4%	
		15.1%		0.08 ***		12.2%	
		9.2%		0.07 ***		9.4%	
		8.1%		0.06 ***		11.4%	
		8.1%		0.06 ***		15.8%	
		4.9%		0.03 ***		10.5%	
住宅所有		47.0%		21.0%		17.7%	
		53.0%		79.0%		82.3%	
住居種別		56.5%		68.5%		69.5%	
		24.0%		0.12 ***		23.5%	
		1.6%		0.13 ***		1.4%	
		15.5%		0.10 ***		4.8%	
仕事		2.5%		1.5%		1.8%	
		23.7%		0.06 ***		56.4%	
地域満足度		-0.02		-0.01 ***		-0.10	
		-0.03		-0.01		-0.01	
		-0.04		0.08 ***		0.00	
		-0.05		0.03 ***		0.03	
		-0.02		0.07 ***		0.13	
		-0.06		0.04 ***		-0.07	
		-0.05		0.03 ***		-0.01	
		-0.02		-0.05 ***		0.15	
建物満足度(5段階・最小-2最大2)		0.55		0.22 ***		0.67	
		34.3%		-0.08 ***		66.0%	
		45.0%		0.03 ***		39.0%	
自己認知		-0.46		-0.07 ***		-0.46	
(5段階評価)		-0.87		-0.03 ***		-1.04	
最小-2最大2)		-0.10		0.07 ***		-0.04	
		-0.37		0.01 ***		-0.22	
		-0.20		0.34 ***		-0.14	
		-0.53		0.00		-0.35	
		0.10		0.04 ***		0.00	
		1.17		-0.02 ***		1.13	
		-0.39		0.12 ***		0.04	
街への気持ち		0.24		0.03 ***		0.42	
(5段階評価)		-0.07		0.01 ***		0.12	
最小-2最大2)		0.02		0.01 ***		0.20	
		-0.11		0.01 ***		0.04	
		0.34		0.03 ***		0.70	
街の印象		-0.05		0.00		-0.19	
(5段階評価)		-0.29		-0.02 ***		-0.23	
最小-2最大2)		-0.22		0.01 **		-0.18	
		0.30		0.00		0.31	
		0.10		-0.01 ***		0.12	
		-0.25		0.00		-0.30	
		0.03		-0.01 ***		0.04	
		-0.29		0.00		-0.32	
		0.02		-0.01 ***		0.06	
格差意識		0.80		-0.04 ***		0.74	
(5段階評価)		-0.62		0.00		-0.59	
最小-2最大2)		0.25		-0.12 ***		-0.06	
		0.21		-0.09 ***		-0.21	
		0.82		-0.03 ***		0.49	
その他満足度		0.52		0.29 ***		0.66	
(5段階評価)		-0.02		0.09 ***		0.07	
最小-2最大2)		-0.42		0.01 ***		-0.33	
		-0.11		0.04 ***		-0.01	
		0.10		0.35 ***		0.25	
友達関係		35.0%		0.07 ***		35.2%	
		28.5%		0.01		26.5%	
		33.4%		-0.01 **		34.9%	
		19.4%		0.03 ***		34.1%	
		24.0%		0.01 *		14.1%	
		11.2%		-0.02 **		19.2%	
		40.1%		-0.12 ***		32.0%	
やりたいこと		22.2%		0.11 ***		25.5%	
		31.1%		-0.01 **		33.3%	
		22.0%		0.06 ***		16.9%	
旅行		28.4%		0.09 ***		37.4%	
		4.6%		-0.01		7.1%	
その他		58.6%		0.02 ***		69.6%	
		17.0%		-0.03 ***		16.6%	
		18.7%		-0.16 ***		16.8%	
		20.7%		-0.05 ***		34.0%	
		34.7%		0.01 **		52.6%	
		1.6%		0.00		1.2%	
定数項		5.75 ***		5.78 ***		5.73 ***	

表 4 主観的幸福度を目的変数とした回帰分析の結果(65 歳以上男性/既婚・未婚/持ち家・賃貸)

		65歳以上・男性							
		既婚				未婚			
		持ち家		賃貸		持ち家		賃貸	
サンプルサイズ		24,756		3,696		3,746		2,413	
自由度修正決定係数		0.418		0.430		0.492		0.484	
項目		平均	回帰係数・p値	平均	回帰係数・p値	平均	回帰係数・p値	平均	回帰係数・p値
目的変数	主観的幸福度(10段階・最小1最大10)	7.22		6.62		6.12		5.53	
年齢	20歳代(baseline)		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	30歳代		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	40歳代		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	50歳代		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	60歳代	49.3%	(omitted)	58.0%	(omitted)	60.8%	(omitted)	63.0%	(omitted)
	70歳代	50.7%	(omitted)	42.0%	(omitted)	39.2%	(omitted)	37.0%	(omitted)
性別	男性(baseline)		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	女性		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
婚姻	未婚(一度も結婚したことがない)baseline		(omitted)		(omitted)	44.2%	baseline	42.9%	baseline
	未婚(結婚していたが離婚した)		(omitted)		(omitted)	30.0%	-0.04	44.2%	0.09
	未婚(結婚していたが死別した)		(omitted)		(omitted)	24.4%	-0.06	11.2%	0.02
	未婚(結婚していないが同棲している)		(omitted)		(omitted)	1.4%	0.26	1.7%	0.48 *
	既婚(離婚・死別の経験はない)	95.0%	baseline	86.6%	baseline		(omitted)		(omitted)
	既婚(離婚の経験があり、再婚した)	4.2%	0.05	12.0%	0.07		(omitted)		(omitted)
子ども・孫	既婚(死別の経験があり、再婚した)	0.7%	-0.14	1.5%	-0.72 ***		(omitted)		(omitted)
	同居している子どもがいる	29.5%	-0.08 ***	26.1%	0.04	11.1%	0.10	4.8%	0.17
	別居している子どもがいる(単身赴任)	7.9%	-0.07 **	11.4%	0.06	7.5%	0.15	10.3%	0.13
	別居している子どもがいる(寄宿舍等)	2.2%	-0.11 **	2.9%	-0.11	2.0%	-0.13	2.1%	0.35
	別居している子どもがいる(子どもも独立)	74.0%	0.01	62.6%	0.03	31.4%	0.05	26.8%	0.02
	別居している子どもがいる(離婚・死別)	1.9%	-0.07	4.5%	-0.11	8.9%	-0.06	17.4%	-0.07
最終学歴	子どもはいない	12.5%	-0.05	21.8%	-0.04	59.5%	-0.06	61.2%	-0.03
	同居している孫がいる	2.9%	0.04	2.7%	0.36 **	1.4%	0.33	1.2%	0.01
	同居はしていないが、孫がいる(距離10km程度)	27.6%	0.07 ***	20.7%	0.11	9.8%	0.03	8.1%	-0.11
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km程度)	30.9%	0.03	22.7%	0.12	13.6%	0.06	10.6%	-0.07
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km以上)	23.6%	0.05 **	19.5%	0.08	10.7%	-0.04	9.4%	-0.15
	孫はいない	41.5%	0.00	55.0%	0.09	75.9%	0.11	80.2%	-0.21
職業	博士	2.3%	0.02	1.8%	0.37 *	2.7%	0.14	2.1%	0.37
	修士	5.0%	-0.05	4.5%	0.33 **	4.2%	0.14	3.6%	-0.08
	学士	54.4%	-0.03	47.2%	0.16	49.0%	-0.05	40.6%	-0.10
	短大・高専・専門	9.8%	0.06	11.9%	0.17	10.9%	-0.01	11.4%	-0.11
	高卒	26.1%	0.02	30.4%	0.16	29.1%	-0.02	35.5%	-0.08
	中卒(baseline)	2.3%	baseline	4.3%	baseline	4.0%	baseline	6.8%	baseline
世帯年収	会社経営・役員	4.5%	-0.16 ***	5.6%	0.27 **	4.1%	0.37 **	3.2%	-0.17
	管理職	3.9%	-0.08	3.6%	-0.05	2.2%	0.27	1.6%	-0.09
	公務員	2.2%	-0.12 **	1.9%	0.24	1.5%	0.28	0.7%	0.25
	派遣・契約社員	7.7%	-0.13 ***	10.5%	0.11	4.8%	0.18	8.0%	0.11
	パート・アルバイト	11.9%	-0.11 ***	13.4%	0.12	9.2%	0.08	14.8%	0.10
	自由業・自営業	8.2%	-0.10 **	11.1%	0.05	10.8%	0.04	11.1%	0.10
世帯金融資産	専業主婦(主夫)	56.0%	-0.04	45.7%	0.05	62.8%	0.24	53.6%	0.14
	無職	50.7%	0.02	39.1%	-0.53 ***	58.2%	0.07	49.0%	0.29
	0以上400万円未満(baseline)	50.1%	baseline	54.7%	baseline	75.6%	baseline	81.0%	baseline
	400万以上800万円未満	34.9%	-0.01	32.3%	-0.04	18.0%	-0.13 *	15.0%	0.12
	800万以上1200万円未満	9.8%	0.03	8.4%	0.00	4.1%	-0.17	2.3%	-0.14
	1200万以上1500万円未満	2.4%	0.10 *	1.9%	-0.21	1.0%	-0.44 *	0.5%	-0.39
住宅所有	1500万以上2000万円未満	1.6%	0.07	1.7%	-0.09	0.7%	0.04	0.4%	1.70 ***
	2000万以上	1.2%	-0.04	1.0%	-0.34	0.7%	-0.36	0.8%	0.79 **
	ゼロ(baseline)	32.0%	baseline	43.0%	baseline	39.7%	baseline	49.5%	baseline
	1万以上100万円未満	2.8%	-0.05	5.7%	-0.06	4.4%	0.08	9.4%	-0.18
	100万以上500万円未満	12.1%	0.01	15.4%	-0.07	12.5%	-0.04	14.5%	-0.07
	500万以上1000万円未満	9.9%	-0.02	9.5%	0.12	8.8%	-0.06	7.7%	0.10
住居種別	1000万以上2000万円未満	12.9%	0.01	8.7%	0.11	9.6%	0.17 **	7.1%	0.24 *
	2000万以上5000万円未満	18.1%	0.00	10.6%	0.12	14.0%	0.04	7.2%	0.02
	5000万以上	12.3%	-0.03	7.1%	0.28 ***	10.9%	-0.02	4.6%	-0.03
	持ち家以外(baseline)		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	持ち家		(omitted)		(omitted)		(omitted)		(omitted)
	住居種別								
仕事	戸建て	78.2%	0.22	38.3%	0.16	73.0%	0.03	22.9%	0.33 **
	マンション	20.0%	0.17	36.1%	0.14	22.9%	0.01	33.9%	0.06
	タワーマンション	1.4%	0.18	1.4%	0.25	1.2%	0.33	1.3%	0.56 *
	アパート	0.2%	0.11	17.6%	0.01	2.2%	0.08	34.3%	0.16
	通勤時間90分以上	1.9%	-0.08	1.8%	-0.04	1.3%	0.19	1.1%	0.21
	通勤時間60時間以上	52.6%	-0.01	41.9%	0.49 **	59.1%	-0.09	50.1%	-0.29
地域満足度	賑わい因子得点	-0.10	-0.02	-0.07	0.02	-0.15	-0.03	-0.12	-0.10
	行政サービス因子得点	0.03	0.00	-0.09	0.01	-0.14	0.03	-0.19	0.07
	親しみやすさ因子得点	0.00	0.10 ***	-0.09	0.02	-0.12	0.10	-0.16	0.01
	交通利便性因子得点	0.06	0.03 **	0.05	0.02	-0.08	0.14 ***	-0.03	0.11
	静かさ治安因子得点	0.18	0.04 **	-0.03	0.12 **	0.01	0.05	-0.09	0.01
	物価家賃因子得点	-0.04	0.05 ***	-0.14	0.01	-0.12	0.05	-0.14	0.08
建物満足度(5段階・最小-2最大2)	生活利便性因子得点	-0.01	-0.02	0.00	0.01	-0.12	0.04	-0.03	0.00
	防災因子得点	0.20	-0.02	0.05	-0.07	0.05	-0.09 *	0.00	0.06
	ゼロ(baseline)	0.75	0.25 ***	0.45	0.26 ***	0.54	0.22 ***	0.32	0.32 ***
	現住地に20年以上居住	74.2%	-0.01	35.8%	-0.06	69.4%	0.00	27.5%	-0.06
	地元出身である	40.4%	-0.01	30.8%	0.02	51.8%	-0.16 ***	36.9%	-0.04
	自己認知(5段階評価・最小-2最大2)								
街への気持ち(5段階評価・最小-2最大2)	私生活よりも仕事を優先する	-0.39	-0.03 ***	-0.39	-0.08 ***	-0.49	-0.02	-0.45	-0.02
	良く飲みに行く	-0.92	-0.03 ***	-0.99	-0.07 **	-0.95	0.01	-1.02	0.01
	健康には自信がある	0.01	0.09 ***	-0.11	0.12 ***	-0.16	0.16 ***	-0.30	0.14 ***
	自分の才能には自信がある	-0.12	-0.02 *	-0.18	-0.04	-0.27	0.02	-0.30	-0.09 **
	未来は明るい	-0.07	0.23 ***	-0.25	0.31 ***	-0.33	0.29 ***	-0.51	0.43 ***
	友人は多いほうだ	-0.32	0.01	-0.45	0.00	-0.55	0.00	-0.66	-0.09 **
街の印象(5段階評価・最小-2最大2)	休日には良く出歩く	0.11	0.03 ***	-0.01	0.06 **	-0.12	0.01	-0.25	0.07 **
	人生にとってお金は大事だ	1.12	-0.04 ***	1.03	-0.03	1.04	-0.03	1.03	0.05
	ストレスはあまり感じないほうだ	0.12	0.08 ***	0.08	0.03	0.03	0.14 ***	-0.05	0.16 ***
	街に、とても愛着がある	0.49	0.01	0.17	0.04	0.35	0.04	0.08	0.16 ***
	街に、なにか貢献したいと思う	0.20	0.00	-0.09	0.02	0.01	-0.02	-0.20	-0.07
	街に、誇りを持っている	0.25	0.03 **	-0.01	-0.04	0.10	0.05	-0.15	-0.01
街の印象(5段階評価・最小-2最大2)	街には、友人や知り合いが多い	0.06	0.01	-0.26	0.05 *	-0.09	-0.01	-0.37	0.06
	街に、ずっと住んでいたいと思う	0.79	0.04 ***	0.38	0.02	0.62	0.08 **	0.30	-0.02
	街には、外国人など多様なひととがいてる	-0.24	0.01	-0.03	0.01	-0.23	-0.01	-0.08	0.05
	街づくりや地域の活動に積極的に参加している・したい	-0.16	0.00	-0.40	-0.03	-0.37	0.01	-0.51	-0.07
	街は、人間関係が濃密だ	-0.14	0.01	-0.27	0.06 *	-0.21	0.07 **	-0.34	-0.04
	街は、新しく引っ越してきた人もなじみやすい街だ	0.31	-0.02	0.22	-0.04	0.16	-0.11 ***	0.15	0.03
格差意識(5段階評価・最小-2最大2)	街は、子育て支援に力を入れている	0.12	-0.01	0.05	0.01	0.02	-0.07 *	0.01	-0.05
	街は、移住者誘致に力を入れている	-0.30	0.00	-0.27	0.06	-0.31	0.00	-0.29	-0.04
	街は、高齢者福祉に力を入れている	0.03	-0.01	-0.01	-0.09 **	-0.01	0.00	-0.03	0.09 *
	街は、Uターンに力を入れている	-0.32	0.01	-0.30	-0.05	-0.33	0.01	-0.33	-0.03
	自分と似たような属性の人が多い	0.09	-0.03 ***	-0.06	0.00	-0.06	-0.04	-0.11	0.06
	日本は格差社会だと思う	0.70	-0.04 ***	0.76	-0.02	0.68	0.06 **	0.81	-0.01
その他満足度(5段階評価・最小-2最大2)	自分は世の中では上流だと思う	-0.48	0.07 ***	-0.72	0.02	-0.67	0.06 *	-0.94	0.09 *
	自分は世の中では下流だと思う	-0.13	-0.09 ***	0.15	-0.15 ***	0.10	-0.16 ***	0.44	-0.08 **
	収入や社会的地位などに劣等感を感じる	-0.25	-0.06 ***	-0.06	-0.13 ***	-0.15	-0.14 ***	0.07	-0.19 ***
	老後の生活資金が足りるか不安である	0.41	-0.03 ***	0.72	-0.03	0.45	-0.02	0.82	-0.02
	家族関係には大変満足している	0.78	0.32 ***	0.65	0.34 ***	0.20	0.19 ***	-0.06	0.14 ***
	仕事には大変満足している	0.13	0.05 ***	0.02	0.02	-0.05	0.04	-0.18	0.07 **
友達関係	収入には大変満足している	-0.24	0.04 ***	-0.52	0.02	-0.43	0.03	-0.73	-0.01
	社会的地位には大変満足している	0.07	0.03 ***	-0.14	0.11 ***	-0.12	-0.01	-0.38	0.09 *
	生活には大変満足している	0.37	0.31 ***	0.05	0.36 ***	0.04	0.49 ***	-0.30	0.41 ***
	仕事とは関係がなく、遊んだりする友人がいる	35.0%	0.01	28.9%	0.11 *	31.0%	0.16 **	29.8%	0.21 **
	小中学校からの友人がいる	27.4%	0.01	21.5%	-0.03	23.0%	-0.06	17.6%	-0.10
	高校・大学からの友人がいる	37.4%	0.01	29.7%	-0.09	27.4%	0.02	21.7%	-0.04
やりたいこと	職場で出来た友人がいる	36.5%	0.01	27.9%	-0.05	27.7%	0.00	22.8%	0.16 *
	就職してから職場以外で出来た友人がいる	14.5%	0.02	12.5%	0.13	12.2%	0.00	11.6%	0.27 **
	近所に住んでいて出来た友人がいる	16.1%	-0.04	10.2%	-0.03	12.1%	-0.05	10.3%	0.04
	友達が一人も居ない	30.2%	-0.03	40.4%	-0.08	41.4%	-0.13 *	44.8%	0.01
	今、人生でやりたいことがある	26.6%	0.08 ***	24.2%	-0.01	24.8%	0.12 **	24.8%	0.05
	お酒は飲まない	26.9%	0.02	32.1%	0.00	31.4%	0.08	35.8%	0.04
旅行	よく外食する	18.3%	0.06 ***	16.2%	0.20 ***	16.3%	0.04	16.0%	0.06
	国内旅行に良く行っていた/よく行く	41.6%	0.09 ***	30.1%	0.02	27.8%	0.08	22.3%	0.00
	海外旅行に良く行っていた/よく行く	7.1%	0.03	5.6%	-0.05	6.0%	-0.02	4.9%	0.06
	クルマを持っている	79.6%	0.04 *	62.9%	0.04	62.3%	0.00	39.0%	0.02
	ペットを飼っている	18.7%	-0.01	13.5%	-0.13 *	10.4%	0.11	7.9%	0.15
	喫煙している	18.2%	-0.09 ***	24.9%	-0.13 **	22.3%	-0.12 **	27.1%	-0.25 ***
その他	リベラルな考え方をしている	34.7%	-0.02	33.7%	-0.06	31.8%	-0.05	34.3%	0.09
	保守的な考え方をしている	57.1%	0.03 *	50.9%	0.06	50.6%	0.		

表 5 主観的幸福度を目的変数とした回帰分析の結果(65歳以上女性/既婚・未婚/持ち家・賃貸)

		65歳以上・女性					
		既婚		未婚			
		持ち家	賃貸	持ち家	賃貸		
サンプルサイズ		6,012	2,276	2,168	1,350		
自由度修正決定係数		0.474	0.523	0.480	0.518		
項目		平均	回帰係数・p値	平均	回帰係数・p値	平均	回帰係数・p値
目的変数	主観的幸福度(10段階・最小1最大10)	7.34		6.90		6.98	
年齢	20歳代(baseline)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	30歳代	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	40歳代	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	50歳代	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	60歳代	52.5%	(omitted)	59.2%	(omitted)	47.8%	(omitted)
	70歳代	47.5%	(omitted)	40.8%	(omitted)	52.2%	(omitted)
性別	男性(baseline)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	女性	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
婚姻	未婚(一度も結婚したことがない)baseline	(omitted)	(omitted)	22.0%	baseline	25.3%	baseline
	未婚(結婚していたが離婚した)	(omitted)	(omitted)	33.8%	0.09	46.7%	0.17
	未婚(結婚していたが死別した)	(omitted)	(omitted)	44.1%	-0.02	26.9%	0.08
	未婚(結婚していないが同棲している)	(omitted)	(omitted)	0.1%	-1.07	1.2%	0.58
	既婚(離婚・死別の経験はない)	95.2%	baseline	92.1%	baseline	(omitted)	(omitted)
	既婚(離婚の経験があり、再婚した)	3.8%	0.01	6.5%	0.01	(omitted)	(omitted)
子ども・孫	既婚(死別の経験があり、再婚した)	1.0%	-0.05	1.4%	-0.08	(omitted)	(omitted)
	同居している子どもがいる	25.0%	-0.11 **	28.9%	-0.22 ***	25.6%	-0.06
	別居している子どもがいる(単身赴任)	5.9%	0.04	6.4%	-0.09	7.7%	0.23 *
	別居している子どもがいる(寄宿舍等)	1.4%	-0.11	1.3%	0.48 *	1.0%	-0.68 **
	別居している子どもがいる(子ども独立)	76.7%	0.03	72.1%	-0.01	56.2%	0.00
	別居している子どもがいる(離婚・死別)	1.8%	0.18	2.6%	0.00	4.8%	0.06
最終学歴	子どもはいない	12.6%	-0.01	15.4%	0.04	32.0%	-0.09
	同居している孫がいる	3.1%	0.14	3.3%	0.36 **	4.3%	0.22
	同居はしていないが、孫がいる(距離10km程度)	30.1%	0.06	28.3%	0.05	21.7%	0.04
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km程度)	33.5%	-0.02	32.2%	0.03	25.1%	0.02
	同居はしていないが、孫がいる(距離100km以上)	29.5%	0.03	26.1%	0.04	18.5%	-0.04
	孫はいない	35.3%	-0.09	40.2%	0.04	53.5%	-0.02
職業	博士	0.8%	-0.31	0.4%	0.34	1.2%	0.29
	修士	1.5%	-0.32 **	0.8%	0.34	1.9%	0.23
	学士	25.9%	-0.14	17.4%	0.18 ***	23.7%	0.09
	短大・高専・専門	34.2%	-0.16	33.6%	0.09	33.1%	0.09
	高卒	35.0%	-0.24 **	44.1%	0.05	37.0%	0.08
	中卒(baseline)	2.5%	baseline	3.6%	baseline	3.7%	baseline
世帯年収	会社経営・役員	1.0%	0.19	0.4%	0.14	0.9%	0.28
	会社経営・役員	0.7%	-0.06	0.5%	0.44	0.9%	0.7%
	管理職	0.8%	0.14	0.5%	0.16	1.2%	0.36
	公務員	1.2%	0.12	1.9%	0.15	2.4%	0.42 *
	派遣・契約社員	15.6%	0.10	19.3%	0.20	18.8%	0.16
	パート・アルバイト	2.7%	-0.04	3.2%	0.25	5.9%	0.22
世帯金融資産	専業主婦(主夫)	75.5%	-0.00	71.8%	0.25	66.1%	0.35
	無職	12.5%	-0.09 *	12.5%	0.05	47.4%	0.13
	0万以上400万円未満(baseline)	55.0%	baseline	59.8%	baseline	77.9%	baseline
	400万以上800万円未満	33.8%	-0.01	31.2%	0.09	16.7%	0.14
	800万以上1200万円未満	7.5%	-0.04	6.5%	0.19	4.0%	0.12
	1200万以上1500万円未満	1.7%	0.16	1.7%	0.43	0.8%	0.8%
住宅所有	1500万以上2000万円未満	1.3%	0.02	0.7%	0.18	0.5%	0.32
	2000万円以上	0.7%	0.26	0.6%	0.10	0.2%	0.26
	ゼロ(baseline)	39.5%	baseline	47.7%	baseline	43.9%	baseline
	1万以上100万円未満	1.6%	-0.18	2.7%	-0.17	2.4%	-0.44 **
	100万以上500万円未満	9.5%	-0.01	12.0%	0.19 **	10.8%	-0.14
	500万以上1000万円未満	8.6%	-0.02	10.1%	0.14	9.0%	-0.18 *
住居種別	1000万以上2000万円未満	11.4%	-0.01	9.6%	-0.01	10.8%	-0.08
	2000万以上5000万円未満	17.9%	0.03	11.0%	0.14	14.5%	-0.03
	5000万円以上	11.4%	-0.02	7.0%	-0.03	8.7%	-0.07
	持ち家以外(baseline)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	持ち家	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)	(omitted)
	戸建て	77.2%	0.58 ***	58.2%	0.30 **	63.0%	0.50 *
仕事	マンション	20.2%	0.49 **	26.6%	0.27 *	31.9%	0.49 *
	タワーマンション	1.6%	0.47 **	1.7%	0.53 **	2.2%	0.32 *
	アパート	0.4%	0.52	8.6%	0.05	1.6%	0.28
	通勤時間90分以上	0.4%	0.14	0.7%	0.26	0.8%	0.10
	通勤時間60分時間以上	74.3%	0.14	70.3%	0.05	63.2%	-0.14
	通勤時間30分未満	-0.10	-0.03	-0.14	-0.07	-0.09	0.02
地域満足度	行政サービス因子得点	0.07	-0.03	-0.04	-0.08	0.01	-0.06
	親しみやすさ因子得点	0.13	0.03	0.02	0.00	0.11	0.03
	交通利便性因子得点	0.04	0.05	-0.05	-0.07	0.02	-0.02
	静かで治安因子得点	0.24	0.10 ***	0.08	0.20 ***	0.16	0.04
	物価家賃因子得点	-0.03	-0.01	-0.09	-0.01	-0.07	-0.11
	生活利便性因子得点	0.04	0.04	0.00	0.16 **	0.05	0.04
建物満足度(5段階・最小-2最大2)	防火因子得点	0.21	-0.05 *	0.07	-0.02	0.13	-0.07
	防火因子得点	0.77	0.10 ***	0.51	0.16 ***	0.76	0.24 ***
	現住地に20年以上居住	74.4%	-0.03	58.6%	-0.07	65.6%	0.05
	地元出身である	33.3%	-0.05	31.5%	-0.02	41.3%	0.02
	自己認知(5段階評価)	-0.63	-0.04 **	-0.62	-0.03	-0.59	-0.10 ***
	最小-2最大2	-1.34	-0.02	-1.37	-0.02	-1.37	-0.04
街への気持ち(5段階評価)	健康には自信がある	0.03	0.09 ***	-0.09	0.07 **	0.07	0.10 ***
	自分の才能には自信がある	-0.38	0.02	-0.46	-0.06	-0.36	-0.04
	未来は明るい	-0.05	0.25 ***	-0.16	0.27 ***	-0.13	0.36 ***
	友人は多いほうだ	-0.21	0.00	-0.32	-0.01	-0.26	0.03
	休日には良く出歩く	-0.06	0.03 **	-0.14	0.08 **	-0.18	0.04
	人生にとってお金は大事だ	1.22	-0.02	1.17	-0.05	1.25	0.10
街の印象(5段階評価)	ストレスはあまり感じないほうだ	-0.10	0.09 ***	-0.17	0.13 ***	-0.02	0.17 ***
	街に、とても愛着がある	0.53	0.00	0.33	-0.02	0.54	0.05
	街に、なにが貢献したいと思う	0.21	0.05 **	0.05	0.06	0.16	-0.05
	街に、誇りを持っている	0.33	0.05 *	0.13	0.00	0.31	-0.09 *
	街には、友人や知り合いが多い	0.32	0.03 *	0.10	0.07 **	0.29	0.02
	街に、ずっと住んでいたいと思う	0.81	0.04 *	0.55	0.07 *	0.81	0.02
街の印象(5段階評価)	街には、外国人など多様なひとがいる	-0.19	0.03 *	-0.12	-0.02	-0.11	-0.05
	街づくりや地域の活動に積極的に参加している・したい	-0.19	-0.01	-0.28	-0.01	-0.24	-0.39
	街は、人間関係が濃密だ	-0.15	-0.01	-0.19	0.08 **	-0.19	-0.31
	街は、新しく引っ越してきた人もなじみやすい街だ	0.44	-0.04 *	0.35	0.12 ***	0.42	0.01
	街は、子育て支援に力を入れている	0.25	0.00	0.19	-0.10 **	0.20	0.12
	街は、移住者誘致に力を入れている	-0.32	0.04 *	-0.30	-0.01	-0.32	-0.09 **
格差意識(5段階評価)	街は、高齢者福祉に力を入れている	0.11	-0.02	0.09	0.01	0.14	-0.03
	街は、リターンに力を入れている	-0.31	0.04	-0.30	0.05	-0.32	-0.30
	自分と似たような属性の人が多い	0.18	-0.01	0.04	-0.04	0.04	-0.06
	日本は格差社会だと思う	0.78	-0.06 ***	0.82	-0.02	0.84	0.01
	自分は世の中では上流だと思う	-0.57	-0.02	-0.73	0.06	-0.68	-1.02
	自分は世の中では下流だと思う	-0.27	-0.14 ***	0.01	-0.09 ***	-0.09	0.33
その他満足度(5段階評価)	収入や社会的地位などに劣等感を感じる	-0.33	-0.05 **	-0.09	-0.09 **	-0.28	0.07
	老後の生活資金が足りるか不安である	0.40	-0.01	0.72	-0.08 **	0.46	0.01
	家族関係には大変満足している	0.82	0.41 ***	0.68	0.36 ***	0.62	0.14 ***
	仕事には大変満足している	0.07	0.02	0.00	0.09 **	0.03	0.06
	収入には大変満足している	-0.21	-0.03	-0.44	0.00	-0.38	-0.77
	社会的地位には大変満足している	0.04	0.02	-0.10	-0.02	-0.06	-0.32
友達関係	生活には大変満足している	0.37	0.37 ***	0.14	0.45 ***	0.29	0.50 ***
	仕事とは関係がなく、遊んだりする友人がいる	40.1%	0.01	35.6%	-0.01	46.0%	0.12 *
	小中学校からの友人がいる	30.1%	0.02	26.7%	0.07	32.0%	0.02
	高校・大学からの友人がいる	38.9%	-0.05	32.5%	0.04	38.9%	-0.06
	職場で出来た友人がいる	34.1%	0.04	31.1%	0.08	40.1%	-0.02
	就職してから職場以外で出来た友人がいる	15.1%	0.01	12.5%	-0.07	18.7%	0.09
やりたいこと	近所に住んでいて出来た友人がいる	35.7%	-0.08 **	30.8%	0.01	32.1%	-0.15 **
	友達が一人居ない	25.9%	-0.05	32.2%	-0.07	23.5%	-0.22 **
	今、人生でやりたいことがある	24.7%	0.16 ***	21.6%	0.12	25.9%	0.30 ***
	お酒は飲まない	46.1%	-0.02	46.7%	0.01	49.4%	0.05
	よく外食する	15.8%	0.04	14.4%	0.02	12.8%	-0.03
	国内旅行に良く行っていた/よく行く	42.8%	0.09 **	33.4%	0.02	33.3%	0.03
その他	海外旅行に良く行っていた/よく行く	9.6%	0.03	7.3%	-0.06	8.7%	0.09
	クルマを持っている	68.5%	0.07 *	58.3%	0.01	50.1%	0.08
	ペットを飼っている	17.7%	-0.06	15.5%	-0.19 **	18.7%	-0.15 *
	喫煙している	5.5%	-0.16 **	7.8%	-0.18 *	9.4%	-0.09
	リベラルな考え方をしている	34.1%	-0.01	30.1%	-0.03	34.1%	0.05
	保守的な考え方をしている	46.6%	0.00	40.9%	-0.02	45.8%	-0.08
定数項	生活保護を受給している	0.3%	-0.04	1.1%	-0.37	1.1%	0.99 ***
			6.17 ***		5.23 ***		5.51 ***

*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

0.525 となっている。

説明変数の傾向は以下の通りである。

- 結婚しているかしていないかは、全ての属性で有意な影響がない。
- 同居している子どもがいることは全属性でマイナスであり、既婚の場合は有意である。
- 孫がいることは、同居している孫がいる場合の既婚・賃貸のみ有意でプラスである。
- 最終学歴は既婚・賃貸の場合のみ有意に大きな影響がある。
- 職業の影響はほとんど有意ではない。
- 世帯年収は、既婚賃貸の場合に有意に大きな影響がある。
- 世帯金融資産は、有意である場合は限られる。
- 住居種別は、未婚・賃貸の場合は有意ではないが、それ以外の場合にはかなり大きな有意な影響がある。
- 地域への満足度は静かさ治安因子が一定の影響があるそれ以外の項目では有意ではない。
- 建物への満足度は全属性で有意なプラスの影響がある。
- 現住地に 20 年以上居住、地元出身であることは全属性で有意ではない。
- 自己認知では、健康に自信がある、未来は明るい、ストレスはあまり感じないほうだ、という 3 項目が全属性で有意にプラスの影響がある。
- 街への気持ちでは、友人や知り合いが多いのは既婚者で有意にプラスだが、未婚では有意ではない。
- 街への印象では属性によって傾向が異なる。
- 格差意識では、下流だと思う、劣等感を感じることに全属性で有意なマイナスの影響がある。
- 家族関係への満足度、生活への満足度は全属性で有意に大きなプラスの影響がある。
- 友達関係では有意な項目は少ない。
- 人生でやりたいことがあると、既婚賃貸以外の場合に有意に大きなプラスの影響がある。
- お酒、外食、旅行の影響は総じて有意ではない。
- 喫煙していることは既婚持ち家の場合のみ有意にマイナスの影響がある。
- 生活保護を受給していることは、未婚持ち家の場合のみ有意に大きなプラスの影響がある。

5. 考察

分析結果のポイントと考察は以下の通りである。

- 全年齢を対象とした場合に比べて 65 歳以上の場合は有意な説明変数が大幅に少なくなる。高齢になれば、若い時には気になっていたことの多くが気にならなくなるといったことが要因として考えられる。そして、それが高齢者の主観的幸福度の分散が小さいことに繋がっている可能性がある。
- 結婚していること同棲していることのプラス効果は男性のほうが女性よりも大きい。これは先行研究とも整合的であり、男性が高齢時には配偶者に依存しがちであることを示唆している。
- 子どもがいないこと、孫がいないことは、8 つに層別化した全てのケースで有意とはならなかった。全年齢の分析では子どもがいないことは有意にマイナス（逆に言えば子どもがいることは有意にプラス）だったが、65 歳以上になると子どもが幸福度に与える影響が消えてしまう傾向を示している。ただし、65

歳以上男性既婚持ち家、65 歳以上女性既婚の持ち家と賃貸の両方の場合で、同居している子どもがいることは有意にマイナスとなっており、子どもが親に依存している状態があまり好ましくない可能性を示唆している。

- 最終学歴の影響は全年齢対象の分析では比較的大きいが、65 歳以上では有意なケースがほとんどなくなる。高齢時には昔の学歴など気にしなくなる傾向があると思われる。
- 職業は、全年齢対象の分析では有意な影響があるが、65 歳上では男性既婚持ち家の場合のみ有意にマイナスの影響がある。これは解釈が難しい。
- 世帯年収は全年齢では年収 1200 万円までは有意にプラスの影響があるが、それ以上では影響がほとんどなくなる。先行研究では年収 800 万円が上限だというものもあるがそれよりも上限が高くなっている。一方 65 歳以上の層別化した分析では、女性既婚賃貸の場合に有意なプラスの影響がある以外はあまり影響が見られない。これは 65 歳以上の場合には年金収入が主な収入となり、現役時ほどの収入の格差がないことが影響している可能性があることを示唆している。
- 世帯金融資産は、全年齢では有意にプラスの影響があるが 65 歳以上の層別化した分析では男性未婚持ち家、女性既婚持ち家の場合に比較的重要なプラスの影響が見られる以外は有意な場合が少ない。これは、日本の高齢者は金融資産を温存し生活費に充当しない傾向が強いことで、金融資産の多寡が幸福度に影響しないことを示唆している。
- 地域満足度は 65 歳以上男性既婚持ち家の場合に有意な場合がある以外は有意なケースは少ない。ただし、有意であってもその影響は大きくはない。これはよく言われる地域コミュニティの重要性が過大に評価されている可能性を示唆している。
- 建物への満足度は層別化した全てのケースで有意に比較的大きなプラスの影響がある。これは、建物性能が日常の生活に密接に関係していることが背景として考えられる。
- 現住地に 20 年以上居住、地元出身であることは層別化した場合ほとんどの場合で有意ではない。これも地域コミュニティの重要性が過大に評価されている可能性を示唆している。
- 自己認知では、私生活より仕事を優先することは多くのケースで有意に若干のマイナスで、未来は明るいと思うことは、全てのケースで有意に大きなプラスの影響がある。これはワークライフバランスが労働時間という外形的なものよりも、考え方の影響のほうが大きい可能性があることを示唆している。
- 街への気持ちは有意であるケースが少なく、有意であってもその影響は比較的小さい。これも地域コミュニティの重要性が過大に評価されている可能性を示唆している。
- 格差意識では、下流だと思うこと、劣等感を感じることは 65 歳以上の層別化した全てのケースで有意にマイナスの影響がある。これは格差の拡大がかなり広い範囲で影響を及ぼしている可能性を示唆している。
- 家族関係への満足度、生活への満足度は、65 歳以上の層別化した全てのケースで有意に大きなプラスの影響がある。男性既婚持ち家の場合には仕事へ

の満足度、収入への満足度、社会的地位への満足度も小さいが有意にプラスの影響がある。これは地域や友達といった周辺との関係よりもより狭い範囲の人間関係の影響のほうが大きいことを示唆している。

- 友達関係では 65 歳以上の層別化した全てのケースで有意な項目がほとんどない。これは高齢者の孤独感を考えるための重要な示唆を含んでいる。
- 人生でやりたいことがあることは、65 歳以上の層別化した 8 つのケースのうち、男性既婚持ち家、男性未婚持ち家、女性既婚持ち家、女性未婚持ち家、女性未婚賃貸の場合で有意に比較的大きなプラスの影響があるが、男性既婚賃貸、男性未婚賃貸、女性既婚賃貸の場合には有意ではない。これは、やりたいことを皆が持つべきだ、という一部にある風潮が必ずしも正しいとは限らない可能性を示唆している。
- お酒をのまないことはほとんどの場合で有意ではなく、よく外食することは男性既婚の持ち家と賃貸の場合のみ有意にプラスの影響がある。これは、健康への実際の影響と心理的な幸福感への影響が異なる可能性があることを示唆している。
- その他の項目では、喫煙していることは、65 歳以上の 8 つ層別化したケースの中で、男性の 4 ケース、女性既婚持ち家の場合で有意にマイナスの影響がある。これは、健康への影響と同様に、心理的な幸福感への影響があることを示している。
- 生活保護を受給していることは、65 歳以上の層別化した 8 つのケースのうち、男性既婚賃貸の場合に有意に大きなマイナスの影響があるが、男性未婚持ち家の場合と女性未婚持ち家の場合には逆に有意に大きなプラスの影響がある。これは、生活保護のスティグマの強さが、ケースによって異なる可能性があることを示唆している。
- リベラルな考え方、保守的な考え方といった政治的志向は 65 歳以上の層別化した 8 つのケースでは男性未婚持ち家の場合を除き有意ではなかった。これは、先行研究で示されている政治的左派の幸福度が低い傾向があることを整合的ではない。

本研究の結果を見ると、全年齢を対象とした分析では、結婚していること、子どもが居ること、学歴が高いこと、世帯年収が高いこと(ただし上限はある)、世帯金融資産が多いこと、住んでいる地域と建物への満足度が高いこと、未来は明るいと思い、家族仲良く暮らし、生活に満足していること、喫煙しないこと、といった幸福度を高める共通項があることが分かる^{注2)}。

一方で、地域コミュニティ、友人関係、行政サービスなどは幸福度にはほとんど影響しないという結果になっている。

また、下流であると思うこと、劣等感を感じる、通勤時間が 90 分を超えることが幸福度を下げる要因になっていることから、これらの状況を改善することは社会的要請でもあると言える。

近年はワークライフバランスにも注目が集まっているが、週労働時間が 60 時間以上であることは全年齢を対象とした分析では有意にプラスであることは、長時間労働が本人の幸福度を必ずしも下げているわけではない、という点で留意する必要がある^{注3)}。

65 歳以上を対象にした、男性・女性、既婚・未婚、持ち家・賃貸を組み合わせた 8 つの層別化した分析では全年齢を対象とした分析結果とは異なる傾向が示され

ている。

8 つのケースで有意にプラスの影響があるのは、住んでいる建物への満足度が高いこと、健康には自身があること、未来は明るいと思うこと、ストレスをあまり感じないと思うこと、家族関係に満足していること、生活に満足していること、くらいしかない。

逆に、下流だと思うこと、劣等感を感じる、は男女ともに、喫煙者であることは男性の場合に、有意にマイナスの影響がある。

6. 結論と今後の課題

65 歳以上を対象とした主観的幸福度には、共通項は少なく、性別、婚姻状況、住居所有等の状況によって、その構造がかなり異なることが分かった。

このことは高齢者全般の幸福度を上げていくためには、状況に応じた多様な対策が必要であることを強く示唆している。

また、下流だと感じる、劣等感を感じるといった格差意識は、幸福度に対して今回の 12 に層別化して分析した全てのケースで有意にマイナスの影響があることから、社会的にも政策的にも優先順位の高い課題であることが強く示唆されている。

今後の課題としては、こうした幸福度の構造に地域差があるか、高齢時の収入を大きく左右する年金による違い(国民年金か厚生年金か)があるか、といったことがある。

参考文献

- 1) OECD(2012)「OECD 幸福度白書」明石書店
- 2) 内閣府ホームページ「Well-being(幸福度)に関する取り組み <https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/index.html> (2025.11.21 最終閲覧)
- 3) Diener, E., Suh, E., Lucas, R. E., & Smith, H. (1999), Subjective Well-being: Three decades of progress. *Psychological Bulletin*, 125(2), 276-302.
- 4) Kahneman, D., & Deaton, A. (2010), High Income Improves Evaluation of Life but Not Emotional Well-Being. *PNAS*, 107(38), 16489-16493
- 5) ブルーノ S. フライ・アロイス・スタッツァー (2005) 幸福の政治経済学: 人々の幸せを促進するものは何か ダイアモンド社
- 6) 大竹文雄・白石小百合・筒井義郎(2010)「日本の幸福度 格差・労働・家族」日本評論社
- 7) 橋本俊詔・松里江(2018)「幸福感の統計分析」岩波書店
- 8) 鶴見哲也・藤井秀道・馬奈木俊介(2021)「幸福の測定—ウェルビーイングを理解する」中央経済社
- 9) 中川威(2018) 高齢期における主観的幸福感の安定性と変化—9 年間の縦断研究—「老年社会科学 Vol. 40No.1, p.22-31
- 10) 岩原由香・福井小紀子・藤川あや・石川孝子・藤田淳子(2023) 「高齢者の幸せの構成要素: 幸福度・満足度を高める設問に対する自由記述の計量テキスト分析より」日本看護科学会誌 Vol.43 ,p.38-45
- 11) 鶴羽愛里・横山薫(2024)「高齢者の主観的幸福感に関連する心理行動要因世代性、異世代との交流頻度、コーピング・スタイル」日本世代間交流学会誌 Vol.14No.1,p.3-12

補注

注1) 詳細は、いい部屋ネット街の住みこころランキング特設サイト参照。 <https://www.eheya.net/sumicoco/>

注2) これらの項目の逆は、幸福度を下げる要因となっていることになる。

注3) ただし、家族の幸福度への影響は明らかではない点には注意が必要である。